# 学体連会報

発行日　昭和62年9月15日
東京都渋谷区代々木神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人　日本学校体育研究連合会
発行者　会長　大石　三四郎


## 心身相関の数理

会　長
特殊法人　日本体育・学校健康センター理事
学校法人　佐藤栄学園　埼玉短期大学創設準備室長　　大　石　三四郎


昔、34年前、東教大体育学部時代、学生の大部分が運動部の選手であることから、選手の運動能力の向上に統計学のどの部分が応用できるかということで、管理図法を取り入れて相当の成果をあげた。運動能力の代表的なものとして立幅跳を取り上げ、管理図にその記録が管理上限を越えることを示しながら、運動能力が大学生時代でも飛躍することを認識させたことは大きな成果となってあらわれ、これによってサッカー部の関東リーグ戦と全日本学生で優勝のキッカケを作り得た。また、この管理図は体重とか脈拍を管理することによって、得てして試合当日に体調の最低で突入することを避けさせることに大変役立った。体操部の選手などが当時全盛を誇る時代であったが、管理図の利用で体調のコントロールをできたことは大変な意味があった。

スポーツでも新しい記録が出るはずのものがなかなか出なかったり、どうも、記録がある比較的高い点で止まったりするとスランプといったりすることがある。これがどうして起きるのかいまだに正しい解明はない。しかし、しばしば起きる現象なので、選手自身はもとより、監督やコーチが躍起になって研究するゆえんである。ただ、これも管理図を利用することによって、意外と早い時期に抜け出すことをしばしば発見するところである。これは一種のピンチともいえる現象であって、逆にこのピンチを抜け出ればチャンスとなって新記録を出すことが可能なのである。

このように、教育、スポーツを通じて勉強してくると、私は始めに心身相関の問題にぶつかり、また最後に心身のコントロールをどうするかということに突き当たる。もとより、心身の状態を点数で評価点を示すことは科学的に最もむずかしいことには相違ないが、むずかしいといって放っておくことはできない。そこで、評価できなければ、座禅という心身修錬の方法を選ぶのも一つの方法であろう。また、きびしい先生について錬えてもらうのもよい。または、密教の修業をするのもよいことであろう。現に人間には、“火事場の馬鹿力”といって、普段には持てない物を屋外に持って出たというかよわい女性の話を聞いたこともある。また、よくいうことであるが、同じ能力を持った選手でも、入学当初より試合に多く出た者が出場しない者と比べると格段の差がつくというのも、これも単なる技術だけの問題ではないようである。また、プロの選手としても、飢餓感がある者とない者では大いに違うといったり、政治家や実業家にしても若いときに苦労した者としない者との差があるといったり、何か人生には「心身に相関があるよ」という事実をよく聞くのである。といって、心身の状態を正しく評価することは困難である。そこで、私は出来ないことは不可能としても、仮説を立てて、もし暗示として心身の状態を評価できたら、この暗示的な評価法を利用したらどうだろうと思うのである。暗示によって与えた評価にしても、数字で表すことができれば、この暗示で得た数字群に一応、数の論理の適用は可能であろう。

例えば、5段階法で評価して、この範囲の評価値なら正常なものとして処理し、この5段階の評価点ならばこれをどのように利用するかということになる。ことに、心と身の対応値が極端に相違して大きな差を示すときは、問題ありとすることは正常な判

断であると思う。そして、この差が極度にゆれるときは、いわゆるパニックの状態であると思ってよいのであろう。しかし、このパニックの状態は、逆に利用すれば新しい心身相関の理想の状態にも達することができるのである。

私は、障害児を生んだ夫婦の心身の状態の動揺が激しいとき、大きな問題の起きることを知っている。ときには離婚ともなり、ときには自殺ともなることがある。しかし、逆に、夫婦相助け、新しい夫婦生活をものにすることもありうる。

## コンピューター時代における体育と野性の回復

常務理事
日本体育大学教授　長　田　一　臣

### 中国における子供の非野性化現象

最近10年間に公的立場から3回も訪中する機会に恵まれたので先ずは他山の石として中国の状況から触れてみたい。中国のまるでお祭りのような群衆の犖きは恰度四半世紀前に立ち寄ったインドのボンベイの印象と同じであった。貧乏人の子沢山というか「飢餓と生殖」の標本を見るおもいがしたものだ。

中国の人口が10億とすれば、すでに世界人口が50億に達した現在、その$\frac{1}{5}$を中国人が占めていることになる。中国の国土面積はわが国の26倍、人口は10倍であるのに耕地面積は2倍に過ぎないといわれる。従って、その慢性的食糧不足を解決するためには人口抑制政策は中国の最重要課題の一つである。文革までは「子供は3人」までといっていたが、8年前から「一人っ子」政策を強力に推進し始めた。

情報に依れば、現在中国における14才以下の子供の数は三億三千七百万人といわれ、年令が下がるほど一人っ子の比率も増加し、現に小学校1年生の年代ではその80%が一人っ子だといわれる。それにもかかわらず中国の人口はじりじりと増え続けているのである。食糧を倍に増産しても人口が増えれば元の木阿弥ということを当局は必死で呼びかけている。

一人っ子となると、どうしても親の育て方、過保護が問題となる。大事に扱われ、甘やかされて育てられた結果が、臆病で怠惰、自己中心的で傲慢で短気な性格の子供が激増し、今や社会問題化してきている。中国人といえば現在では一般に痩身的印象を受けるが、だんだん肥満児が増え始めており、その大半が一人っ子だといわれる。一人っ子ということは「きょうだい」がいないということであり、それは「いとこ」がいないことに通じ、その後の親戚関係に大きな変化が起こることをも意味している。

### 「エミイル」的野性とコンピューター時代

「他山の石」といっても一人っ子の問題、核家族化は日本の方が先輩である。中国で問題化していることはすでに日本で起こっていることである。一人っ子の性格、肥満化の問題は子供の責任ではなく、大人の問題であり、親だけの責任でないとするなら、それは時代の流れというほかない。従って、個々の国々の問題ではなく世界的な「風」といえる。

J. J. ルソーはその著「エミイル」の劈頭に「造物主の手を出る時は凡ての物が善であるが、人間の手に移されると凡ての物が悪くなってしまう」と云っている。これが詰りは子供の責任ではないということである。しかし、これはすでに中国の孟子の「性善説」ではないか。「植物は栽培によって生育し、人間は教育によって人となる」とルソーは云い、「子供を一歩も室外へ出なくともよいものとし、常に僕婢に囲繞せられておるべきものとして教育するくらい愚かな教育法がどこにあろうか？」という。

更に「世人はその子供を保護することばかりしか考えぬが、それでは十分ではない。子供が成長の後には自分で自分を保護するように教えねばならぬ。運命の打撃に堪え、貧富を度外視し、必要に応じてアイスランドの氷の中にでも、マルタ島の焼けつく岩の上にでも生きてゆくことを教えねばならぬ」ともいっている。親が子を慈しむのは自然の理であるが、真の慈しみが何かという親の、そして教師の判断が大変むつかしいのである。

今日の子供達がファミコンに明け暮れるのを嘆き、憂れてはならない。子供達はそうやってコンピューター時代に自然に適応してゆくのである。但し、大人側の指導精神としては常にエミイル的態度を持たねばならないと思う。「肉体を野蛮に、精神を高尚に」という毛沢東のことばはそのことを示している。物質文明の跳梁する時代の体育に課せられる使命は、ここに自ら明瞭に示されていると思う。





## 学習意欲の向上に役立つ評価

筑波大学助教授　高　橋　健　夫

会報第21号4ページから続きます。高橋先生は62年4月から筑波大学に勤務されております。

〈学習成果につながる課題ゲームの工夫〉

「楽しい体育」のスローガンのもとで、集団的スポーツについては、「ゲーム」を中心に展開する授業が大変多いようですが、明確な学習課題を欠いたゲームを漫然と行ったとしても、子ども達の学習意欲は高まらず、また学習成果も上がらないことは、私達の研究の結果からも明らかです。ゲームにおいて達成すべき課題が明確であり、しかもその課題が達成できたかどうかがはっきり評価できるような「課題ゲーム（Task game）」や「ドリルゲーム」を工夫し、積極的に位置づけていく必要があります。詳しく述べる余裕はありませんが、いくつか例をあげれば、3対3の三段攻撃を課題にしたバレーボールのゲーム（ハーフ・コート）；投げる（当てる）、捕える、避けるの技能習得を目的とした2対2の「はしご型ドッジボール」（写真）；3人の攻撃のパターンのドリルに焦点を当てた3対3のバスケットのゲーム等々です。これらのゲームでは、学習課題が明確であり、課題達成のいかんを評価できることはもちろんのこと、より小さい集団でのゲーム（ミニ・ゲーム）であるため、ゲーム中の運動従事の頻度も明らかに高くなり、ＡＬＴの値を高めることができます。さらには、児童・生徒による授業評価を高めるにちがいありません。

近年、このような学習課題の明確化ということに関連して、到達目標、到達度評価をカード形式で作成する努力が払われるようになったことは大変結構なことだと考えます。しかし、このような形式のみをまねてみても子ども達の学習意欲を高めたり、学習成果につなげていくことができるものではありません。大切なことは、そのような到達度評価の中にもり込まれるプログラム（学習課題）の質がどこまで深く検討されているかどうかということです。子どもの能力にみあったスモール・ステップの段階目標や学習プログラムが設定される必要があり、また客観的で、具体的で、子どもにとって分り易い評価基準が工夫されなければならないでしょう。

〈授業過程での教師による評価活動〉

授業中の教師による活発な評価活動は、児童・生徒の学習意欲を高めるうえで実に重要です。この点、体育授業は、教室での授業と異なって、大きな利点をもっていることは明らかでしょう。体育授業過程では、子どもの一つ一つの学習活動が形になって現われ、うまく課題を解決している子、つまずいて悩んでいる子、集団から疎外されている子が見えてきます。その意味で、「形成的評価」という言葉が生まれる以前から、体育では、個々の生徒に対して個別的な評価活動が大切にされてきたといえるでしょう。

先にあげたＡＬＴ研究の結果からも、一般に、授業中の教師による積極的な評価活動（励げまし、賞讃、フィードバック、評価）は、児童・生徒の学習意欲を高め、ＡＬＴの値を高めると報告されております。私達の研究でも、教育実習生に「生徒へのかかわりあい」（励げまし、賞讃、フィードバック）の頻度を多くするように介入したところ、その後の授業において著しくＡＬＴの値を高めることができたという事例があります。

先生が授業中に椅子を持ち出してきて、漫然と子ども達の活動を見ているような白らけた授業では駄目だということです。まずは、精一杯子ども達と関わりを持っこと、多少無理をしてでも子どものよいところを見つけ出して誉めるように心がけること、子どもの出来栄えに対して適切な評価を与えたり、有効なフィードバックを与えることが大切です。しかし、このように言うことは、教師がチャー・リーダーのように振舞うことが望ましいというのではありません。教師の運動を見る目や集団での問題を見

技く目が問われるのであり、結局は、教師が教材研究を通して体育的実力を見につけていくことが必要であるといえます。

## 第26回全国学校体育研究大会宮城大会のご案内

宮城県実行委員会委員長
宮城教育大学教授　洞　口　六　夫

10月22日(木)、23日(金)の両日にわたって、第26回全国学校体育研究大会が本県で開催されることになりましたのを最高の光栄に存じております。本県では、昭和40年以来、小、中、高、高専、大学の保健体育科教育の一貫性をめざして、本県内の学校体育研究大会を継続開催して参りましたが、今回、はからずも全国大会が開催されることになり、学校関係者は勿論、県教育行政機関とも十分連携を保ちながら、全国各地からの参加者の受け入れについて万全を期している次第であります。

学校体育に関する研究ということになりますと、一般に、大上段に構え、一大発明発見でもしなければといった認識を持ち、容易に研究活動に踏みこめない教師が多いような観を呈しているように思われます。私は、学校体育の研究に関するかぎり、研究課題は、日常の授業活動の中に数多く存在するものと認識しております。個人的能力差、性差、評価、指導法、用具等に関する課題が山積しているわけであります。

全国学校体育研究大会は、今大会ですでに26回の回数をかぞえ、四分の一世紀にわたって積み重ねられてきたすばらしい研究大会であります。しかも、この研究大会で発表された研究課題は、莫大な数にのぼる筈であり、学校体育に関する全国的課題の把握の上からも非常に重要な研究大会と云えましょう。

更に、学校体育についての研究を目ざす、幼、小、中、高、高専、大学、盲・聾・養護学校の教員の交流、そして、全国的レベルのすぐれた指導者による助言指導など、参加者としてのメリットも最大なものと確信いたします。このような意味からも、この研究大会には、ひとりでも多くの先生がたの参加を期待して止まないのであります。

最後に、第26回全国大会が開催されることになりました会場の仙台市と名取市についてふれておきたいと思います。仙台市と名取市は隣接した市であり、仙台市は70万都市、名取市は7万都市となっております。学校数は、県全体で約1,000校で、仙台は、特に杜の都、学都と称され、政令都市をめざして発展の一途をたどっております。交通便としては、南方に仙台空港をひかえ、東北新幹線、東北自動車道などが既設され、市内には、最近地下鉄なども整備されており、交通便には事欠かないものと思っております。更に、周辺の観光地としては、日本三景の一つである松島、西方には、秋保温泉郷、作並温泉郷、北方には、鳴子温泉郷、南方には蔵王温泉郷などが介在し、研究大会参加後の観光研修にも大いに役立つことができるものと確信いたしております。

どうか、来たる全国大会には、お誘い合わせの上ご参加下さいますよう、紙上からお願い申し上げる次第であります。

# 地方だより

## 豊かな心で美しく生きる

評議員
長崎県高等学校保健体育部長
県立島原高等学校長　白　石　俊　一

氷雨のけむる或る日の午後、ホテルでの会議に出席した。会場は暖かさを越すほどの暖房がきいていた。

会議は熱意あふるる提案と、意見発表があり、参加者の多くに満足感を与えた。気がつくと熱気の中で紫色の煙草のけむりは室内に充満し、ある人の前の灰皿は吸がらでホマーテの山のようになった。むせて咳き込む人も出てきた。

やがて飲み物が出された。よくひえて美味しく一口、二口飲んだ。その瞬間、あまったるい味が口の中をおおった。これはうまいけど「毒」だと思った。

空き罐は巷にあふれ、ガンで一度だけの人生をうばいさられることの多い時なのにどうにかならないのだろうかと苛立たしさを覚えた。先般、島原市長を表敬訪問した時出された飲み物は何と牛乳であった。心の中で合掌し、有難くいただいた。

本県でも、高校長会や教頭会、それに教務主任会や生徒指導主事会等、煙草を吸わない会議が多くなった。豊かで美しい思いやりの心で、豊かに生き、美しく生きるための環境作りは子孫のためにも、私たち大人の責務である。

ところで、今年度も、福江小学校・豊玉中学校・長崎水産高校・大村園芸高校・聖和女子学院高校でも、それぞれの研究主題にむけて鋭覚研究がなされ秋から冬にかけて発表会が行われることになっている。

## 神奈川県学体連の足跡から

理　事
神奈川県学校体育研究連合会会長
横浜市立綱島東小学校校長　三　村　茂　樹

記録によると、本県学校体育研究連合会の発足は昭和３８年。当時から今日に至るまで、組織団体である小学校体育研究会、中学校体育連盟、高等学校教科研保健体育部会、女子体育連盟の先人達が、営営として伝統を築き、支え続けてきた。この間、東京オリンピックを契機に体力づくりが叫ばれ、世の中は高度経済成長に湧き、やがて石油危機に遭遇、そして二度の教育課程の改訂、近年では、生涯教育への指向、教育改革の提言等が相次いでいる。

これらの各時代に即応した県内の学校体育の動向や組織の変遷は、毎年発行されている機関誌「学体研」を通して知ることができるが、中でも、発足以来、長い歳月のうちで最も歴史に残る事業は、昭和５８年の「第２２回全国学校体育研究大会、神奈川大会」の開催であろう。大会遂行にあたっては、組織団体から選出された学校現場の教職員が主体となり、県教委を始め横浜・川崎など関係市町村教委の絶大なる支援のもと、１年余の短い準備期間で本番を迎える状況にもめげず、無事にその責を全うした組織力の強さ、これこそ、正に、永年培われてきた学体連の伝統の賜物といえよう。また、この全国大会が組織の存在を世に示しただけに止まらず、今なお、県内唯一の小・中・高校一貫の学校体育研究を推進する源流となっている。

現在も、各団体から選ばれた２２名の役員、理事を中心に、各々の体育研究の実績や、事業の状況、さまざまな情報交換等で相互理解に努めているが、今後は、毎年懸案になっている学体連主催の事業としての講演会、研究大会等を実現させ、組織の強化と共に、学校体育の充実、発展を願っている。

## 東　京　の　近　況

理　事
東京都学校体育研究連合会会長
東京都立南多摩高等学校校長　佐　野　和　夫

東京都学校体育研究連合会では、本年度に入り、高校においては３月で退官された斎藤昭二前会長（都立砂川高校長）から佐野和夫会長（都立南多摩高校長）に交替、中学では遠藤秀夫会長（新宿区立大久保中学校長）、小学校では三浦一郎会長（江東区立明治小学校長）を中心に、62年度の活動に入っている。

今までの活動実践が評価されて、小学校で３校、中学・高校で各１校が全国大会で優良校として表彰をされる予定であり、個人でも８名が功労者の候補

になっている。今回の東京都の状況報告は、高保体研の活動について、若干のべることにする。

昨年度は公・私立高校450校から会費の納入があり、都内10支部の各学校の先生方が、夫々の研究活動を実践して来た。まだ不十分な支部もあり、今年度はさらに充実させて行きたいと考えている。全体としては行事部が中心となって、体育実技講習、スキー教室指導者講習、舞踊研究発表大会、年度末には体育部、保健部、視聴覚部、定時制部等が1年間の研究成果を発表する会も計画している。去る7月に学校ダンス講習会を実施し、今流行のジャズダンスを行ったところ、女子教員だけでなく、男子教員の参加も見られ、新しい時代を感じさせられた。今年度はまた東京都が担当で、関東地区高保体研の研究大会が、国立競技場のとなり、日本青年館で、来たる11月27・28の両日にわたって開催されるので、発表会・協議会への積極的参加を期待している。東京都では、小・中・高ともに、健康へのとり組みとともに、生涯体育の基礎づくりを年頭に、実践研究に取り組んでいる。

## ❋❋❋❋❋ 事務局だより ❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋❋

事務局長　重田　一

1. 昭和61年度62年度一期の役員が62年度には次のようになった。（61年度については会報第21号をごらん下さい。）

会　長　大石　三四郎　学校法人　佐藤栄学園
　　短期大学創設準備室長（学長予定）
副会長　長野　元泰　大阪府立体育会館館長
理事長　浅田　隆夫　目白学園女子短期大学教授
常務理事　伊藤順蔵　早稲田大学教授
〃　江田　昌佑　筑波大学教授
〃　遠藤　秀夫　新宿区立大久保中学校校長
〃　長田　一臣　日本体育大学教授
〃　加室　一臣　東京都立神代高等学校校長
〃　鈴木　文夫　筑波大学教授
〃　武内　法子　江戸川区立鹿本幼稚園園長
〃　三浦　一郎　江東区立明治小学校校長
理　事　栗城　正　札幌市立東橋小学校校長
〃　洞口　六夫　宮城教育大学教授
〃　桜井　和男　群馬県立沼田女子高等学校校長
〃　清水　善之　新宿区立戸塚第一中学校校長
〃　佐野　和夫　東京都立南多摩高等学校校長
〃　三村　茂樹　横浜市立綱島東小学校校長
〃　貝谷　東吾　新潟市立東山の下小学校校長
〃　山本　八郎　愛知県立瀬戸窯業高等学校校長
〃　中大路　勉　京都市立朱雀第一小学校校長
〃　南　隆男　枚方市立川越小学校校長
〃　谷口啓二郎　兵庫県立須磨東高等学校校長
〃　久保　和彦　奈良県宇陀郡榛原町立榛原中学校校長
〃　前田　勇四　山口県教育庁保健体育課課長
理　事　前田　幹夫　高知大学教育学部教授
〃　松藤　友喜　福岡県立筑紫高等学校校長
〃　荒木　時弥　熊本県立大津高等学校校長
〃　高山　義孝　宮崎県立宮崎南高等学校校長
監　事　浜口　義春　練馬区立開進第三中学校校長
〃　金森　久　東京都立北高等学校校長
〃　山崎　宏史　江戸川区立下小岩小学校校長

なお、参与が次の通り決まった。
参　与　江本　嘉幸　サンケイ新聞論説委員

2. 会報・機関誌

学体連では会報を年に2回（主に7月と1月）、1回41,500部作って特別賛助会員、終身賛助会員その年度の賛助会員及び、各都道府県に送っている。各都道府県では、公立の小・中・高校1校に1部は届くだけの部数を送っている。送り先はそれぞれの事務局あるいは特定の教育委員会学校体育担当課。読んだあとの感想なり意見なりを寄せて頂きたい。

機関誌「学校体育研究」は毎年3月31日付で出している。3,000部。

いずれも配布は容易でないと思い、感謝している。

3. 全国大会

正確には全国学校体育研究大会。昭和37年に第1回が千葉県で始まり、第21回の新潟大会の前日、全国大会は東・中・西の順で開こうと決めたのが昭和57年10月13日。実際に東からとなったのが62年度宮城大会から。この間、神奈川、沖縄、鹿児島、兵庫と開かれている。来年は愛知県。64年度第28回は未だに決まらない。第29回は北海道に内定。

これから出番になるのは、上記の他に、北から次の通りである。続々と名乗りをあげて頂きたい。

青森、岩手、秋田、茨城、栃木、山梨、長野。





富山、石川、静岡、三重、京都、奈良。
島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛
福岡、佐賀、大分、宮崎。　以上1府23県

なお、東・中・西とは、このように区分している。
東……北海道・東北地区と関東・甲信地区
中……北陸・東海地区と近畿地区
西……中国地区・四国地区と九州地区

4. 第26回全国学校体育研究大会宮城大会

10月22日（木）、23日（金）、宮城県民会館ホールで開かれる。この大会は、意図せずしてNHKの伊達政宗に遭い、仙台で初めての地下鉄運転開始とめぐり合わせるという運をもっている。素晴しい仙台市博物館では「政宗の真実」と出会える。

70人余の実行委員会で懸命に大会準備をしている。開会までにあと1ケ月。参加しめきり期日に捉われないで、遠慮なく申し込むのがよい。東北地区における学体連の全国大会は、この県が3番目。初めての県は第7回（昭和43年）の福島、2番目は第13回（昭和49年）の山形。山形からでも13年目である。

5. 保健体育功労者のバッチがメタルに

全国保健体育功労者には、表彰状の他にバッチを差し上げていたが、今年から、より多く眼に触れる機会をとの趣旨から、立派な箱入りのメタル（直径6㎝）を書斎等に飾れるようにしたものである。これが½の大きさであり、JFSPEはJapan Federation of School Physical Education の略である。実物はこれから作られ、初めて10月の宮城大会で差し上げることになる。紙上で見るよりも立体的な実物の方が迫力があるとは、制作者・国光商会の言である。功労者積年のご努力の結実が、その書斎や茶の間を飾る日を思うのである。メタルの裏には、その功労者の固有番号が刻まれる。プレートには特別賛助会員である株式会社ユーハイムの名も見られる。

6. 昭和62年度　財団法人　日本学校体育研究連合会主催研修行事一覧

| | 大会名 | 主題 | 期日 | 会場 | 主な内容 | 参加費 | 参加人員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 第7回障害児キャンプ指導者講習会 | 指導力を高める障害児キャンプの理論と実践 | 8月17日(月)～19日(水) 2泊3日 | 東京YMCA 山中湖センター 0555-65-7721 | 講義<br>・組織キャンプの沿革とプログラム<br>・グループワークの理論と実際<br>・障害児の医学的理解<br>実習<br>・野外炊飯<br>・キャンプファイアー<br>・入浴介助　・ボート | ¥16,400 | 10名 |
| ② | 第18回全国学校体育実技研修会幼稚園・保育園の部 | 幼児が自ら進んで取り組む運動や遊びの指導 | 8月20日(木) 21日(金) | 東京都台東区立根岸小学校 03-876-2411 2413 | 講義と研究協議<br>・幼児の発達課題とからだ<br>・動き・心づくりの考え方<br>実技<br>・鬼遊び　集団遊びの<br>・遊具を用いた運動遊びの<br>・動きのリズムの指導法 | ¥4,000 | 24名 |
| ③ | 第18回全国学校体育実技研修会小学校の部 | 基礎的・基本的な内容を重視し、児童の個性を生かした体育指導 | 8月27日(木) 28日(金) | 東京都江東区立明治小学校 03-641-0550 03-642-4845 | ・基本の運動・ゲーム<br>・ボール運動・表現運動<br>・器械運動　・体操<br>・陸上運動　・水泳 | ¥4,000 | 119名 |
| ④ | 第26回全国学校体育研究大会 | 21世紀をたくましく生きぬく児童生徒の育成をめざす学校体育の創造 | 10月22日(木) 23日(金) | 宮城県仙台市 宮城県民会館ホール　他 | 第1日…開会式　表彰<br>アトラクション　講演<br>第2日…分科会 | ¥4,500 | 2,500名? |

7. 昭和62年度収支予算中の加盟団体補助について

このことについて、近年続いて加盟都道府県に対し、等しく5万円の補助を支出して来たが、61年度歳入決算額17,485,116円に対し、歳出決算額は18,079,372円となり、差し引き594,256円のマイナスとなった関係で、等しく3万円とさせて頂くことになった。これは、4月25日（土）に行われた理事・評議員会で承認されたものである。

## 編　集　後　記

生活条件が整備された環境に長く住んでいると、人が生まれつき備えていた、生きるためのたくましさというものが徐々に失なわれていくように思います。特に児童・生徒の生活のなかから野性的闘争心が年々少なくなるような気がします。いろいろなことを器用にこなすことはできても、障害にあったときにそれを突き破るたくましさに欠けている児童・生徒が増えているのではないでしょうか。このような話しあいの中からコンピューター時代における体育と野性の回復というテーマがきまりました。すでに実践されている学校の紹介を中心にと事務局と一緒にさがしたのですが、締切りまでに原稿が間にあいませんでした。この学校では、このように指導して、成果をあげつつあるという事例がありましたらお知らせください。また最近は執筆をお願いしても引き受けてくださる学校・先生が少なくなり、会報の発行に苦慮することが多くなって来ております。お忙しいとは思いますが、学体連活動充実のために、御協力をお願い致します。

編集委員　伊藤忠一

信頼される旅づくり

歓迎!!
第26回
全国学校体育研究大会
仙台市

歴史を訪ねる旅
街道をゆく

◆期日　昭和62年10月22日(木)～23日(金)

◆NHK大河ドラマ「独眼竜政宗」の道を踏破する教育視察!!

- 名所松島と奥羽平泉の文化をたずねて
- 片倉小十郎の里「みちのく小京都」白石をたずねて
- 街道をゆく「独眼竜政宗」

多数のご参加をお待ちいたしております。

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号
仙台中央支店
仙台市本町2丁目3-10 朝日生命仙台本町ビル
☎ 022－224－1841